

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会

代表世話人 宇佐美宏（全国保険医団体連合会歯科代表）

代表世話人 江原雅博（全日本民主医療機関連合会歯科部長）

代表世話人 大沢 文雄（歯科技工士）

世話人 中澤桂一郎（日本医療福祉生活協同組合連合会理事）

保険で良い歯科医療の実現を求める要請書

「健康は健口からはじまる」——口の健康を維持することが、糖尿病の管理をはじめ、高血圧症や動脈硬化、誤嚥性肺炎、認知症の予防等、全身の健康に深い関わりを持っていることが様々な研究で明らかになっています。甚大な被害をもたらした東日本大震災の歯科医療支援でも、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士等が参加し、「命を守る総合的なケア」の一環として口腔ケアが行われ、あらためてその重要性が認識されました。

しかし、今日の「格差と貧困」社会のなかで、子どもからお年寄りまで経済的理由による歯科受診困難、治療中断・中止で「口腔崩壊」という深刻な事態が広がり、国民皆保険制度のわが国で、歯科保険医療を国民が等しく享受することができない異常な状態が進行しています。

これら深刻な事態を招いたのは、窓口負担の高さに加え、技術料の長期据え置き、新規技術・材料の保険導入の遅れ等、歴代政府の歯科保険医療政策の軽視に原因があることは明白です。

歯科医療供給側も厳しい状況におかれ、マスコミでも「ワーキング・プア歯科医」という言葉が定着し、2011年度の私立歯科大学10校で定員割れとなる等、将来の歯科医師確保と歯科医療の質の低下が憂慮されます。

さらに20代の歯科技工士の8割が未就業、歯科技工士学校や歯科衛生士養成学校でも定員割れが続いています。

現在、私たちが取り組んでいる「保険で良い歯科医療」を求める請願署名は25万筆を超え、「保険で良い歯科医療の実現を求める」意見書は35都道府県の11道県議会534市区町村議会で採択されています。

「格差と貧困」が広がる今こそ、いつでも、どこでも、だれもお金の心配のない「保険で良い歯科医療」の実現は、患者・国民、歯科医療従事者の共通の切実な願いです。

そのため、国の医療予算を増やして、「保険で良い歯科医療」の実現が図れるよう下記の事項を要望いたします。

記

- 1、安心して歯科治療が受けられるように窓口負担を大幅に軽減して下さい。
- 2、健康保険で歯科治療が受けられるよう、保険の効く範囲を広げて下さい。
- 3、保険医の人権を無視し、患者の療養権を奪う指導、監査を抜本的に改善して下さい。
- 4、東日本大震災の復旧・復興で大切な歯科治療を再建して下さい。
- 5、「社会保障・税一体改革」案、TPPへの参加は中止して下さい。

以上